

**教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検及び評価に関する報告書
(平成 26 年度事業実績)**

**平成 27 年 12 月
茨城町教育委員会**

目 次

I	教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要	
1	経緯	1
2	目的	1
3	対象	1
4	点検及び評価の方法	2
5	茨城町教育委員会評価委員会委員	2
6	評価委員会実施日	2
II	茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果(平成 26 年度事業)	3
III	教育に関する事務事業の点検・評価シート	
No.1	児童・生徒防犯対策事業	4
No.2	道徳教育推進事業	5
No.3	読書普及推進事業	6
No.4	語学指導事業	7
No.5	教育支援センター事業	8
No.6	ティーム・ティーチング特別配置事業	9
No.7	特別支援教育支援員配置事業	10
No.8	スクールバス運行事業	11
No.9	中学生自然体験教室事業	12
No.10	通学援助事業	13
No.11	私立幼稚園就園者補助事業	14
No.12	幼稚園就園奨励事業	15
No.13	農業体験事業	16
No.14	青少年育成事業	17
No.15	町民教養講座開設事業	18
No.16	長生大学運営事業	19
No.17	人づくり推進事業	20
No.18	茨城町子どもフェスティバル	21
No.19	図書館運営事業	22
No.20	読書推進活動事業	23
IV	教育委員会における今後の対応について	24

教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要

1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(平成20年4月1日施行)の施行により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務づけられた。

本報告書は、同法26条の規定に基づき、平成26年度における茨城町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、教育に関する学識経験を有する者の意見を付して報告するものである。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 目的

事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことにより、事業の成果や課題を検証し、効率的かつ効果的な教育行政の推進に資することを目的とする。

3 対象

茨城町第5次総合計画後期基本計画に基づき、平成26年度に実施した教育委員会の主要な20事業を対象とした。

4 点検及び評価の方法

- (1)各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から検証した。
- (2)各事業の成果と課題を検証し、今後の事業の方向性を確認した。
- (3)学識経験者の知見を活用し、各事業を客観的に点検・評価した。

【原課評価:事業の執行者による自己評価】

各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から3段階で評価し、観点別評価の理由を付した。

- 必要性・・・「必要性が高い」、「一定の必要性がある」、「必要性が低い」
- 有効性・・・「効果がある」、「一定の効果がある」、「効果がない」
- 効率性・・・「効率的である」、「概ね効率的である」、「効率的でない」

【委員評価:評価委員による評価】

各事業の今後の方向性について、「現行どおり」、「拡大」、「縮小」、「休止」及び「廃止」の5段階で評価し、言及された課題や改善策等を評価委員意見として付した。

5 茨城町教育委員会評価委員会委員

高橋 燦吉 (元八戸工業大学学長)

清水 正三 (茨城町教育支援センター 生徒指導相談員)

岩瀬 久美子 (茨城町民生委員児童委員協議会 副会長兼主任児童委員)

6 評価委員会実施日

平成27年8月26日(水)

茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果(平成26年度事業)

分類	目的	VLT	事業資源元				事業対象範囲				原課評価			委員評価			
			国	県	町	参	幼児/幼稚園	小学校	中学校	生涯教育	必要性	有効性	効率性	評価	意見等		
盤教 整備 備基	地域における情報拠点としての図書館運営				○		(19)図書館運営事業				高	高	中	現	利用者は徐々に減少傾向にあるが、今後も町の実情に合わせた実施に努められたい。		
機 会 均 等 支 援	公立・私立幼稚園の負担格差是正				○	(11)私立幼稚園就園者補助事業					中	中	中	現	教育の支えとなるような施策であるため、これまで通り効果的な運用に努められたい。		
	幼児教育の支援奨励		○		○	(12)幼稚園就園奨励事業	(注)カッコ内の数字は点検・評価シートの事業No.を示す				中	中	中	現	今まで推進してきた事業であり、少子化の進む昨今の現状を鑑みても、現状通り継続に努められたい。		
学 校 教 育 の 質 的 向 上 ・ 支 援	通学時における児童・生徒の安全確保	○			○		(1)児童・生徒防犯対策事業				高	中	中	現	110番の家事業に関しては、より実効性の高い管理・推進が必要である。また防災無線による下校時間の周知に関しては、原稿を子どもたちにとってもらう等の方策も検討されたい。		
	規範意識や社会性の向上				○		(2)道徳教育推進事業				高	高	中	現	道徳教育は学校教育のなかでも重要な課題であり、今後もこのような貴重な機会の提供に努められたい。		
	総合力の向上と心の教育の充実				○		(3)読書普及推進事業				高	高	中	現	本を読むということは児童生徒の健全な発達の上でも重要であり、今後も読書量の向上に努められたい。		
	英語教育の強化と指導体制の充実				○		(4)語学指導事業				高	高	中	現	今後は小学生に対しても英語教育が推進される時代であるので、このような支援事業でもって児童・生徒の理解度向上に努められたい。		
	個に応じたきめ細やかな学習支援				○		(6)ティーム・ティーチング特別配置事業				高	中	中	現	今後も茨城町の児童生徒の成績向上のため、きめ細やかな支援に努められたい。		
	障害のある児童・生徒の学習支援				○		(7)特別支援教育支援員配置事業				高	高	中	現	今後も障害を持った子供たちへの支援策として維持に努められたい。		
	通学における利便性・安全性の向上				○	○		(8)スクールバス運行事業				高	高	中	現	運行の内容や方法等を適宜改善しながら、安全かつ持続可能な事業運営に努められたい。	
	自然体験と集団生活を通じた人間育成		○			○		(9)中学生自然体験				高	中	中	現	効率的な運営がなされており、今後も事業を続けるべきだ。なお、茨城町の一大教育施策であるため、教育委員会としてこのような活動を行っていることの周知にも努められたい。	
	通学における安全性の向上					○		(10)通学援助事業				高	高	高	現	生徒児童の安全に寄与する事業であり、近年も児童を標的とした事件が発生しているため、本事業でもって安全な茨城町の維持に努められたい。	
体験学習を通じた人間育成					○		(13)農業体験事業				高	中	高	現	低廉な予算で効率的に運営できている。技術や知恵を後の世代に伝えるため、このような農業に触れさせるような活動は重要である。		
習校 支外 援学	不登校児童・生徒の学校及び社会復帰の支援				○		(5)教育支援センター事業				高	高	高	現	明確に数値等には現われにくい事業ではあるが、不登校の児童生徒を進学させるなどの効果は上がっている。今後も効果的な運用に努められたい。		
青 少 年 ・ 家 庭 教 育 ・ 生 涯 学 習 支 援	体験学習を通じた人間育成	○			○		(14)青少年育成事業				高	高	高	現	この事業には子供たちの人間性を涵養するという以外に地域社会と子どもたちを結びつけるという側面があり、参加者の評価も非常に高い。ぜひ継続して頂きたい。		
	生涯学習と社会参加の促進	○			○			(15)町民教養講座				高	高	高	現	受講者のニーズに合った講座の開設と、受講者の参加しやすい講座の企画立案に努められたい。また、講師の人選においては、偏りが無いのが望ましいと考える。	
	高齢者の生涯学習の促進				○	○			(16)長生大学運営事業				高	高	高	現	高齢者は年々増えてきているが、参加者が増えていない。毎年参加する方以外の高齢者も参加できるよう、学習会などを魅力あるものにして頂きたい。
	文化・芸術を通じた人間育成				○			(17)人づくり推進事業				高	高	高	現	一流人の経験談や人生訓を拝聴することは、自己の生涯学習意識の高揚のためにも必要であり、継続されたい。	
	スポーツを通じた心身の鍛錬及び人間育成				○			(18)茨城町子どもフェスティバル				高	高	高	現	スポーツを通して、互いに切磋琢磨しながら目標を達成する等、学びの機会を次代を担う子供たちにより多く提供できるよう、継続した事業の推進に努められたい。	
	絵本を通じたコミュニケーションの促進	○				○		(20)読書推進活動事業				高	高	中	現	予算を増額しただけの効果が表れている。各学校の図書室運営も巻き込むように、今後も積極的な施策に努められたい。	

VLT: ボランティア協力者の有無

参: 参加者負担金の有無

原課評価は、「高」、「中」、「低」の3段階評価

委員評価は、「現: 現行どおり」、「拡: 拡大」、「縮: 縮小」、「休: 休止」、「廃: 廃止」の5段階評価

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.1

平成26年度

事業名	児童・生徒防犯対策事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策		2 学校教育の充実			② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	13 児童・生徒防犯対策事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円	
	その他財源		0千円		0千円		0千円	
	一般財源		134千円		131千円		131千円	
4 事業の目的	対象	PTA会員、「110番の家」看板の設置宅						
	目的	登下校時における犯罪等の未然防止に努め、学校、PTA、ボランティアなど地域全体で児童・生徒の安全を確保することを目的とする。						
5 事業の概要	【保険】 立哨、引率等、防犯活動に対する保険のため、茨城県PTA安全互助会の加入者負担金を支出。 【「110番の家」看板】 協力者宅に配布する看板を作製。(看板の劣化に応じて3~4年ごとに作製)							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	「110番の家」看板設置軒数			990軒	987軒	985軒		
	小中学校からの不審者情報に関する報告件数			1件	2件	5件		
	小中学校における通学安全対策に係る組織の設置数			12校/12校	12校/12校	11校/11校		
	町防災無線による下校時間の周知			毎週火曜日の下校時間にあわせて実施				
	青色パトロール車による巡視			登校期間における毎週木曜日以外に実施				
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	児童・生徒が狙われる事件が凶悪化する傾向にあり、学校やPTAだけではなく、ボランティアなども含めた地域全体での防犯活動が必要である。						
	有効性	<input type="radio"/> 効果がある <input checked="" type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	報告された不審者情報件数は低水準で推移しており、児童生徒の地域における安全確保の面で一定程度の効果が得られていると推察することができる。しかし、実数の上では増加傾向にあるため予断を許さない。						
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	経費は、互助会負担金と看板作製料(平成25・26年度は無し)に限られ、活動に係る最低限の支出である。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり		110番の家事業に関しては、より実効性の高い管理・推進が必要である。また防災無線による下校時間の周知に関しては、原稿を子どもたちに作ってもらおう等の方策も検討されたい。					

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.2

平成26年度

事業名	道徳教育推進事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策		2 学校教育の充実				② 教育環境の充実	
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	17 道徳教育推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円		0 千円		0 千円	
	一般財源		563 千円		434 千円		417 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒(保護者, 地域住民)						
	目的	生命尊重の心や自尊感情を育み, 規範意識や社会性の向上を図ることを目的とする。						
5 事業の概要	【道徳講演】 詩人 小泉 周二:講演「命の大切さ」 ACM劇場:「長ぐつをはいた猫」 朗読家 見澤 淑恵:朗読ライブ				【立志の集い】 期日:平成27年2月27日 9:15~11:50 会場:明光中学校 体育館 式典:「志」発表, 合唱, 講演会等			
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	道徳講演会実施校数			6 校	11 校	11 校		
	実演(演奏等)を含む道徳講演会実施校数			4 校	5 校	4 校		
	立志の集い			3中学校合同	3中学校合同	2中学校合同		
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	充実した道徳教育の時間を確保することは, 児童・生徒の豊かな心の育成に必要である。						
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	本事業の継続を望む学校からの意見は多く, さらに, 講演会へ参加した保護者からも好評を得た。						
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	道徳講演会については, 限られた謝金の予算の中で各校で講師を探し実施しており, 担当教員の負担になっているとの意見があった。 立志の集いについては, 実行委員会を設置して企画・運営全般を生徒達自身で実施した。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止						
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり	道徳教育は学校教育のなかでも重要な課題であり, 今後もこのような貴重な機会の提供に努められたい。						

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.3

平成26年度

事業名	読書普及推進事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり		
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実			
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	18	読書普及推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度		
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円		
	その他財源		0千円		0千円		0千円		
	一般財源		282千円		206千円		202千円		
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	読書活動の推進を通して、児童・生徒の国語力の向上と心の教育の充実を図る。							
5 事業の概要	児童・生徒の読書活動を推進するため、読書記録(書名、作者名、感想等)を記載させる用紙及び用紙の保管用のバインダーを配布し、年間を通じて目標冊数を達成した児童・生徒に対して、賞状を授与する。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	小学校4～6年生の3年間で300冊以上の本を読んだ児童数				30人	40人	31人		
	中学校1～3年生の3年間で150冊以上の本を読んだ生徒数				9人	10人	12人		
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	児童・生徒の国語力の向上及び心の教育の充実のため、読書の有効性が注目されており、読書活動を推進するために本事業が必要である。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	本事業を中心とした読書活動の推進により読書の習慣が定着し、年間の読書冊数の目標を達成する児童・生徒数は増加している。それに伴い、児童・生徒の文章の読解力が向上してきている。							
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	町統一の年間の読書冊数の目標を設定し、小学生が年間100冊以上、中学校は年間50冊以上の達成者に対して賞状を配布した。平成26年度の小学生の達成者は527人、中学生が62名だった。今後もより事業効果が上がるよう検討を進めて行く予定である。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり								
	本を読むということは児童生徒の健全な発達の上でも重要であり、今後も読書量の向上に努められたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.4

平成26年度

事業名	語学指導事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり		
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実			
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	12	語学指導経費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度			平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		12,833 千円			13,840 千円		12,045 千円	
4 事業の目的	対象	小学校及び中学校							
	目的	児童・生徒の英語学力の向上と、将来、国際化社会において活躍できる人材の育成を目指す。							
5 事業の概要	各中学校に英語教諭のサポートとして、外国語英語指導助手(ALT)を1名配置し、英語教育の充実を図っている。また、平成24年度から小学校においても英語教育が導入されており、小学校にもALTの派遣を行っている。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	英語力の向上(学力診断テスト1年生の平均点)					63.3点	68.6点	72.4点	
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	国際化社会で活躍できる人材育成のサポート役として、学校現場において高い評価を得ている。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	小学校においてもALTを活用することで、中学一年生の学力テストにおける平均点は上昇している。また、児童・生徒の英語に対する見方・考え方に変化が出てきている。							
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	平成25年度から町が直接雇用し、英語指導助手を配置している。委託契約で派遣していた平成24年度よりも全体では経費は上がったものの、現場での打ち合わせの時間がとりやすくなった等のメリットがあった。今後も効果的な活用に向けて検討をしていきたい。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり	今後は小学生に対しても英語教育が推進される時代であるので、このような支援事業でもって児童・生徒の理解度向上に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.5

平成26年度

事業名	教育支援センター事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策		2 学校教育の充実			② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	13 教育支援センター経費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円	
	その他財源		0千円		0千円		0千円	
	一般財源		8,418千円		5,961千円		6,103千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒及び教職員						
	目的	不登校、暴力行為、いじめ等の未然防止及び早期対応と、不登校に陥った児童生徒の社会復帰支援を行う。また、児童・生徒の指導に関する教職員からの相談を受け、教職員の指導力向上に資することを目的とする。						
5 事業の概要	【勤務時間】	年間を通じて、実情に応じて勤務(7時間45分以内/日、3日以内/週)						
	【勤務内容】	主な業務は、不登校をはじめとした生徒指導上の問題を抱える児童・生徒に対する指導や相談業務である。また、各小中学校において、教師の生徒指導力の向上を図るための研修を行う。						
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度			
	不登校児童生徒数(30日以上・病欠を除く)		39人	29人	23人			
	児童・生徒100人あたりの不登校の出現者数(町/県)		1.52人/1.11人	1.14人/1.17人	0.92人/1.21人			
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	不登校等の児童生徒指導上の問題は、家庭環境や友人関係に起因するものが多く、根深いうえに複雑化している。問題解決には、家庭・学校間をコーディネートする機関が必要である。						
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	きめ細やかな支援によって、児童生徒指導上の問題が解消されるなど、一定の成果をあげている。幅広い対応が採れるよう、関係機関との連携を強化する。						
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的である <input type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	適応指導教室(とんぼのひろば)事業と生徒指導相談員配置事業の2事業が統合され、問題解決に対する人材活用の幅が広がっている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり							
	明確に数値等には現われにくい事業ではあるが、不登校の児童生徒を進学させるなどの効果は上がっている。今後も効果的な運用に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.6

平成26年度

事業名	チーム・ティーチング配置事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	2 充実した教育と安心コミュニティのまちづくり				節	1 充実した教育と教育施設の整備		
	基本施策		1 学校教育の充実				② 教育の質的充実		
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	16	チーム・ティーチング配置事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度		
	国・県・支出金		2,303 千円		0 千円		0 千円		
	その他財源		0 千円		0 千円		0 千円		
	一般財源		10,415 千円		22,872 千円		19,269 千円		
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	全国学力・学習状況調査の結果や町指導主事による学校訪問指導の結果を総合的に考慮し、学力低下が懸念される学校や落ち着きのある学級運営が困難化している学校へチーム・ティーチング講師を配置し、きめ細やかな授業を展開し、学力の向上を図ることを目的とする。							
5 事業の概要	<p>【勤務時間】 年間1,050時間以内(8時間以内/日, 30時間以内/週, 5日以内/週)</p> <p>【勤務内容】 学級担任とともにチームティーチング指導の実施。 少人数の学習集団を形成し、個に応じたきめ細やかな指導の実施。</p>								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	TT非常勤講師数(配置校数)				10人(7校)	9人(7校)	9人(7校)		
	全国学力・学習状況調査	国語の勉強は好きですか			59.6%	70.4%	63.4%		
	対象:小学校第6学年児童	国語の授業はわかりますか			81.8%	86.9%	84.1%		
	「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合	算数の勉強は好きですか			66.7%	74.3%	74.1%		
算数の授業はわかりますか			83.9%	88.0%	86.7%				
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	少人数による学習指導、チームティーチング指導等による個に応じたきめ細やかな指導の充実のために、チーム・ティーチング講師配置の必要性が高い。							
	有効性	<input type="radio"/> 効果がある <input checked="" type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	国語や算数の授業がわかると回答した児童の割合が8割を超えており、個別指導や少人数学習による学力の定着に効果をあげている。							
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	各学校の実情に即し、より高い事業効果をあげるべく、事業の運用方法を随時改善し、効果を検証するための体制を整備する余地がある。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止								
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり		今後も茨城町の児童生徒の成績向上のため、きめ細やかな支援に努められたい。						

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.7

平成26年度

事業名	特別支援教育支援員配置事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策	2 学校教育の充実					② 教育環境の充実	
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	17 特別支援教育支援員配置事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円	
	その他財源		0千円		0千円		0千円	
	一般財源		8,194千円		9,170千円		7,018千円	
4 事業の目的	対象	肢体不自由や発達障害等がある児童・生徒が普通学級及び特別支援学級に在籍する学校						
	目的	普通学級及び特別支援学級に在籍する肢体不自由や発達障害のある児童・生徒に対して、校内における日常生活の介助や危険な行動の防止など安全面に配慮した支援を行う。						
5 事業の概要	【勤務時間】 年間900時間以内(6時間以内/日、28時間以内/週、5日以内/週) 【勤務内容】 日常生活の介助、教室間移動の介助、健康・安全確保、教材作成等を行う。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	特別支援教育支援員数			11人	10人	8人		
	特別支援教育支援員配置校数			8校	8校	8校		
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	児童・生徒の障害の状態に応じた適切な教育を実施し、円滑な学校運営を行うためには、実情に応じて支援員を適宜配置することが必要不可欠である。						
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	当該児童生徒の校内における日常生活の支援及び安全確保の面で成果が見られる。						
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	経費は、配置が必要な児童・生徒の増減による支援員の配置人数により年度ごとに変動する。より高い事業効果を上げるため、支援内容について専門機関へ相談するなど検証を行う必要がある。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり							
	今後も障害を持った子供たちへの支援策として維持に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.8

平成26年度

事業名	スクールバス運行事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり		
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実			
2 予算の体系	款	10	項	3	目	1	事業	14 中学校スクールバス運行事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度		
	国・県・支出金						853 千円		
	その他財源						871 千円		
	一般財源						1,963 千円		
4 事業の目的	対象	青葉中学校に在籍し、通学距離が9km以上の地区から通学する生徒(希望制)							
	目的	学校統合により、遠距離通学となる生徒の通学の安全及び負担の軽減を図る							
5 事業の概要	<p>【運行車両】中型バス1台(バス事業者に運行委託)</p> <p>【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する)</p> <p>【運行回数】1日あたり登校時2回、下校時2回の計4回</p> <p>【停留所数】3ヶ所(香取学習館・網掛学習塾前・網掛ゴミ収集所)</p> <p>【利用料】・利用者1人につき月額3,000円(8月分の利用料は徴収しない)</p> <p>・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目以降の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。</p> <p>・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、上記の額の2分の1の額。</p>								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成26年度					
	スクールバス利用者数			30名					
	スクールバス年間運行日数			201日					
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	スクールバス導入初年度であったが、大きな事故やトラブルもなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげた。							
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	運行内容や方法を精査したうえで、入札により決定した適正な価格で事業運営を行った。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止								
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり								
	運行の内容や方法を適宜改善しながら、安全かつ持続可能な事業運営に努められたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.9

平成26年度

事業名	中学生自然体験教室事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり	
	基本施策		2 学校教育の充実			② 教育環境の充実		
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	28 中学生自然体験教室事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金							
	その他財源						7,515千円	
	一般財源						551千円	
4 事業の目的	対象	町内中学校に通学する2年生生徒						
	目的	集団生活を通して、礼儀・規律・責任・協力・自立などの心を育むとともに、生徒相互及び生徒と教師の心の交流を深める						
5 事業の概要	町内2校の中学校2年生が合同で大洗港を出発し、4泊5日で北海道の雄大な自然環境と文化を実体験する。※ふるさと創生事業基金充当 参加者×3万							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	青葉中参加人数					101名		
	明光中参加人数					150名		
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	茨城新聞に取り上げられる等、当町における特色ある教育施策の一つとなりつつある。また、町内の中学二年全員が対象である交流の場としても重要である。						
	有効性	<input type="radio"/> 効果がある <input checked="" type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	本事業では町内の学校に通学する中学2年生全生徒が参加し、交友を深めることができた。						
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	バスでの移動時間が長すぎたことなど改善点はあるものの、関係者と協議をしたうえで概ね適切な事業計画・執行がなされた。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり							
	効率的な運営がなされており、今後も事業を続けるべきだ。なお、茨城町の一大教育施策であるため、教育委員会としてこのような活動を行っていることの周知にも努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.10

平成26年度

事業名	通学援助事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 明日を担う人づくり		
	基本施策	2 学校教育の充実				② 教育環境の充実			
2 予算の体系	款	10	項	2	目	2	事業	14	通学援助費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度		
	国・県・支出金		/		/		0 千円		
	その他財源		/		/		0 千円		
	一般財源		/		/		2,518 千円		
4 事業の目的	対象	町内小学校の児童							
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、児童の安全を確保することを目的とする。							
5 事業の概要	町内の小学校に通う児童に対し、ヘルメットを無償で配布する。また、ヘルメットを導入済みの小学校に対しては、負担金として支出した。								
	項目				平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	導入済みの学校へのヘルメット負担金				/		2校(526名)		
	ヘルメットの無償提供数				/		1145名		
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	安心して登下校できるはずの通学路での事故が、全国的にも多発し、死亡事故になるケースもある。こうした交通事故から子どもたちを守る対策が必要である。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	ヘルメットを導入してからの事故件数はまだ発生していないが、登下校中の児童を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。							
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的である <input type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	初年度は、一般財源からの支出により全校児童に配布したが、来年度以降は新入学生分だけの支出となる。また平成27年度は地方創生費の補助金対象となる。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり	生徒児童の安全に寄与する事業であり、近年も児童を標的にした事件が発生しているため、本事業でもって安全な茨城町の維持に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.11

平成26年度

事業名	私立幼稚園就園者補助事業				担当課	学校教育課		
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり		節	1 明日を担う人づくり			
	基本施策	2 学校教育の充実			② 教育環境の充実			
2 予算の体系	款	10	項	4	目	2 事業 13 私立幼稚園補助費		
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円	
	その他財源		0千円		0千円		0千円	
	一般財源		1,622千円		1,704千円		1,398千円	
4 事業の目的	対象	公立幼稚園未設置の小学校区から私立幼稚園に通園する園児の保護者						
	目的	上記対象世帯における授業料等の軽減						
5 事業の概要	保護者の申請により、公立幼稚園が未設置である小学校区(石崎小、広浦小、駒場小、長岡第二小)から私立幼稚園に通園する園児の保護者に対して、所得要件に関わらず、園児1名につき月額2,000円を補助する。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	補助対象園児数(途中入園を含む)			65人	73人	59人		
7 事業の評価	必要性	<input type="radio"/> 必要性が高い <input checked="" type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	近年、公立幼稚園が定員割れを起こしている現状から、私立幼稚園を選択しているのは保護者の希望であることがうかがえる。しかしながら、私立幼稚園においても、入園児数が減少していることから、何らかの支援措置が必要である。						
	有効性	<input type="radio"/> 効果がある <input checked="" type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	既に、他の制度(就園奨励費事業)により、十分な軽減措置が採られているが、幼稚園入園の一助となっている現実は否めない。						
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	規則・要綱に則り遺漏なく処理を進めることができている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 休止	<input type="radio"/> 廃止			
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり							
教育の支えとなるような施策であるため、これまで通り効果的な運用に努められたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート 事業 No.12

平成26年度

事業名	幼稚園就園奨励事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	2 充実した教育と安心コミュニティ(共同社会)のまちづくり				節	1 充実した教育と教育施設の整備		
	基本施策		1 学校教育の充実				② 教育の質的充実		
2 予算の体系	款	10	項	4	目	2	事業	12 幼稚園就園奨励費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度			平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		4,154 千円			4,509 千円		4,704千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		13,333 千円			13,912 千円		14,355千円	
4 事業の目的	対象	公立・私立幼稚園に通園する園児の保護者							
	目的	世帯の課税状況に応じて、公立・私立幼稚園間における授業料等の格差解消と保護者負担の軽減を図る。							
5 事業の概要	世帯の市町村民税の課税状況に応じて、授業料等の一部を国の基準額に基づき補助(児童1人につき年間最大308,000円)している)								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成24年度	平成25年度	平成26年度
	補助対象園児数						183 人	179 人	167人
7 事業の評価	必要性	<input type="radio"/> 必要性が高い <input checked="" type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	平成26年度まで、公立幼稚園と私立幼稚園における授業料等の格差は解消されておらず、引き続き補助が必要であった。							
	有効性	<input type="radio"/> 効果がある <input checked="" type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	負担軽減がされることから、授業料等の未納も発生していない。							
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	子ども子育て支援法の施行に伴う国の動向を鑑みながら、関連部局との連携を図り、制度の適正運用に努めた。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり								
今まで推進してきた事業であり、少子化の進む昨今の現状を鑑みても、現状通り継続に努められたい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.13

平成26年度

事業名	農業体験事業						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	2 充実した教育と安心コミュニティのまちづくり				節	1 充実した教育と教育施設の整備	
	基本施策		1 学校教育の充実				② 教育の質的充実	
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	29 農業体験事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金						0千円	
	その他財源						0千円	
	一般財源						182千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒						
	目的	農業体験を通して、生命を大切に作る心や思いやり、助け合いの心、困難にじじげず力強く生きる力等をはぐむ教育を推進するため。						
5 事業の概要	【小学校】 農家の方々からの指導・助言をもらいながら各校の計画により稲や野菜の栽培及び収穫を行う。				【中学校】 中学校近くの遊休農地において、年間を通して農作物を栽培し、収穫後の農作物の活用方法等も決める。			
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	実施校数					11校		
	学校における農業体験学習評価(5点満点)					3.84点		
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	平成23年度から実施されている新学習指導要領に「食育の推進」が位置づけられており、食育の推進を行う活動として必要である。						
	有効性	<input type="radio"/> 効果がある <input checked="" type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	平成26年度から開始した事業であるが、児童・生徒の自主的な活動や意識の変化は見られた。						
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的である <input type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	体験学習にかかる材料費、協力していただいた農家に対する謝金等適切に執行されている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり							
	低廉な予算で効率的に運営できている。技術や知恵を後の世代に伝えるため、このような農業に触れさせるような活動は重要である。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.14

平成26年度

事業名	青少年育成事業					担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	2 充実した教育と安心コミュニティのまちづくり			節	2 青少年の健全育成と家庭教育の充実	
	基本施策		1 青少年の健全育成			② 生活体験, 活動体験の機会の充実	
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業 12 青少年育成事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0千円
	その他財源		315 千円		315 千円		483千円
	一般財源		248 千円		265 千円		172千円
4 事業の目的	対象	児童・生徒					
	目的	町内の子どもたちが一堂に会し、豊かな自然環境の中で自らが企画運営する事業を体験することで、創造力や協調性を養い、忍耐力を身に付け、生き抜く力を育むことを目的とする。					
5 事業の概要	【実施期間】 平成26年7月23日～30日 【実施場所】 潤沼自然公園 【参加人数】 児童・生徒 50人 【研修】 事前研修 3回, 事後研修 1回						
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	筑波山登山		○	○	○		
	食育体験		うどんづくり	うどん, アイス作り	食事づくり		
	公園周辺クリーン作戦		○	○	○		
	里山体験				○		
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い					
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	豊かで便利な日常生活の中では経験できない体験活動を通じて、困難を乗り越える忍耐力を培い、達成感を味わってもらう機会を確保するため、本事業は必要である。					
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない					
	目的とする実績や成果はあげられたか	異年齢の子ども達が共同生活を送ることで、自主性、協調性及び社会性の習得に結びついた。					
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的である <input type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない					
	経費や手段は適切であるか	食材の経費を抑えるなど経費、手段ともに適切に執行されている。					
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 休止	<input type="radio"/> 廃止		
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり						
	この事業には子供たちの人間性を涵養するという以外に地域社会と子どもたちを結びつけるという側面があり、参加者の評価も非常に高い。ぜひ継続して頂きたい。						

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.15

平成26年度

事業名	町民教養講座開設事業					担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	2 充実した教育と安心コミュニティのまちづくり			節	4 生きがいづくり・生涯学習の推進	
	基本施策		2 生涯学習機会の充実				
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業 13 町民教養講座開設事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円
	その他財源		742 千円		734 千円		543 千円
	一般財源		164 千円		243 千円		430 千円
4 事業の目的	対象	全町民					
	目的	町民に様々な学習の機会を提供をすることにより、より豊かな情操を持ち学習意欲を高め、社会への積極的な参加を促すとともに、自分なりの生涯学習を見つけることを目的として開講する。					
5 事業の概要	【教養講座】			【事業の流れ】			
	・20回講座(1)年10,000円 ・10回講座(6)5,000円 ・子ども演劇講座(1)1回300円 ・体験講座(3) 1回500円			4月中旬 受講者募集(全戸にチラシを配布) 5月上旬 募集締切 6月開講			
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度		
	長期講座受講者数		36 人	19人	15人		
	短期講座受講者数		275人	130人	150人		
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い					
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	町民のニーズのあった、若い方々のクラブ立ち上げまでを視野に入れて講座を開講している。					
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない					
	目的とする実績や成果はあげられたか	受講者が自主的に活動していくクラブ化が進み、生涯学習として長く続けていける体制が増えてきており、実績・成果ともにあげられている。					
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的である <input type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない					
	経費や手段は適切であるか	多くの方々に参加してもらえよう、様々な情報を集め予算の範囲内でより多くの講座を開講している。					
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止						
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり						
受講者のニーズに合った講座の開設と、受講者の参加しやすい講座の企画立案に努められたい。 また、講師の人選においては、偏りがないのが望ましいと考える。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.16

平成26年度

事業名	長生大学運営事業					担当課	生涯学習課			
1 総合計画の体系	章	2 充実した教育と安心コミュニティのまちづくり			節	4 生きがいづくり・生涯学習の推進				
	基本施策		1 生涯学習の推進			② 交流の場所の確保(地域間の連携も含む)				
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業	14	長生大学事業費	
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度			
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円			
	その他財源		215 千円		213 千円		193 千円			
	一般財源		608 千円		485 千円		193 千円			
4 事業の目的	対象	65歳以上の町民								
	目的	時代に対応する心構えを養い、心身ともに健康で、生きがいのある人生を送るための学習やクラブ活動を行うことを目的とする。								
5 事業の概要	【事業内容】 実施回数: 8回/年(地域を2分割)・野外研修1回 活動内容: 講話聴講(午前) 受講料: 1,000円									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成24年度	平成25年度	平成26年度			
	長生大学受講生数				185人	201人	190人			
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い								
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	毎年、長生大学の代表組織である運営委員会を開き、意見・感想を取り入れ、参加者の希望に添うよう事業運営に努めている。								
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない								
	目的とする実績や成果はあげられたか	現在の受講者が継続して参加され、よかったとの意見をいただいております、成果は上げられています。								
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的である <input type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない								
	経費や手段は適切であるか	できるだけ講師は無料の方を頼むようにして、経費を抑えている。受講者の募集は、高齢者クラブや町広報誌で広く呼びかけているので有効である。								
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要		<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり									
	高齢者は年々増えてきているが、参加者が増えていない。毎年参加する方以外の高齢者も参加できるよう、学習会などを魅力あるものにしていただきたい。									

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.17

平成26年度

事業名	人づくり推進事業						担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	2 充実した教育と安心コミュニティのまちづくり				節	4 生きがいつくり・生涯学習の推進	
	基本施策		1 生涯学習の推進					
2 予算の体系	款	10	項	5	目	7	事業	13 人づくり推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円	
	その他財源		0千円		0千円		0千円	
	一般財源		515千円		408千円		260千円	
4 事業の目的	対象	全町民						
	目的	一流の文化人による講演会を開催することにより、町民の学習活動を支援し、学習意欲の高揚を図ることを目的とする。						
5 事業の概要	<p>【人づくり文化講演会】 講師:大森 彌 氏 (東京大学名誉教授) 演題:日本のふる里としての地方自治 期日:平成26年11月15日 会場:町中央公民館大ホール</p>							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目				平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	文化講演会聴講者数				390人	320人	237人	
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	町民の学習機会の充実を図り、学習活動を支援するには本事業の必要性が高い。						
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	日常生活における充実感や豊かな心を育み、自己啓発の場としての効果をあげている。						
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的である <input type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	文化講演会については、多くの町民の参加を促すため、広報いばらきやホームページに掲載するとともにチラシによる周知を図った。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止							
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり							
		一流人の経験談や人生訓を拝聴することは、自己の生涯学習意識の高揚のためにも必要であり、継続されたい。						

教育に関する事務事業の点検・評価シート 事業 No.18

平成26年度

事業名	茨城町子どもフェスティバル						担当課	生涯学習課
1 総合計画の体系	章	2 充実した教育と安心コミュニティのまちづくり			節	2 青少年の健全育成と家庭教育の充実		
	基本施策	1 青少年の健全育成			② 生活体験、活動体験の機会の充実			
2 予算の体系	款	10	項	6	目	1	事業	19 茨城町子どもフェスティバル経費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		0千円		0千円		0千円	
	その他財源		0千円		0千円		0千円	
	一般財源		432千円		491千円		465千円	
4 事業の目的	対象	幼児、児童、生徒						
	目的	多年齢層による子どもたちが一堂に会し、スポーツレクリエーションの歓びや楽しさを味わいながら、協調性や創造性を育み、心身ともにたくましい郷土の担い手を育成することを目的とする。						
5 事業の概要	スポーツチャレンジステージ、レクリエーションステージ、にぎわい交流ステージを設け、各ステージにおいて団体種目及び個人種目、ニュースポーツ、アトラクションを実施。また、子ども会育成会等の協力で模擬店を出店したり、青少年育成町民会議と共催でペットボトルキャップの回収を実施。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度			
	少年団対抗障害リレー参加チーム数		17チーム	17チーム	24チーム			
	回収したペットボトルキャップ数		42,140個	63,640個	65,600個			
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	子どもたちが一堂に会し、楽しみながら仲間との交流を深め、スポーツやレクリエーションへの興味や関心を深める機会として、本事業は必要である。						
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	本事業は、子ども会育成会や体育関係団体など、幅広い層の協力のもと実施されており、世代間の交流を図り、地域の連帯意識を醸成するなど本事業の目的とする成果は十分あげられている。						
	効率性	<input checked="" type="radio"/> 効率的である <input type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	子ども達が、スポーツやレクリエーションを慣れ親しむ機会を確保できており、適切な事業運営がなされている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止		<input checked="" type="radio"/> 現行どおり					
	スポーツを通して、互いに切磋琢磨しながら目標を達成する等、学びの機会を次代を担う子供たちにより多く提供できるよう、継続した事業の推進に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.19

平成26年度

事業名	図書館運営事務						担当課	生涯学習課(図書館)
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティのまちづくり				節	3 豊かな心と身体を育む生涯学習の推進	
	基本施策		1 生涯学習の推進				(2) 社会教育施設の充実	
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	11 図書館運営事務費
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		0 千円		0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円		0 千円		0 千円	
	一般財源		10,845 千円		9,703 千円		9,356 千円	
4 事業の目的	対象	図書館利用者(町内及び広域)						
	目的	図書館は地域の情報活用拠点として、利用者に十分な資料の貸出や各種のサービス及び情報を提供することを目的としている。						
5 事業の概要	一般利用者及び施設への資料貸出を行うほか、小さい頃より本に慣れ親しんでもらうため、乳幼児から小学校低学年を対象とした読み聞かせを開催。また、利用促進、読書推進を図るため、夏休み1日図書館員や施設見学を実施。さらには、図書館を通して、勤労観、職業観を養うために中高生の職場体験を受け入れている。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度			
	資料の貸出(相互貸借・団体貸出を除く)		131,339 点	134,764 点	131,576 点			
	絵本となかよし(毎月第2, 4木曜日)		345 人	278 人	303 人			
	おはなしの会(毎月第2, 4土曜日)		277 人	248 人	246 人			
	施設見学(随時)		305 人	282 人	296 人			
	夏休み1日図書館員(小学生)		18 人	18 人	18 人			
	体験学習(中学生)		10 人	15 人	12 人			
	インターンシップ(高校生)		4 人	2 人	2 人			
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	情報通信技術の進展により、多種多様な情報についての要望が高い中、図書館として迅速で詳細な資料提供が必要となる。						
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか	前年度より貸出数及び利用者数も減少して、貸出数で3,188冊・点(2.4%)の減、利用者数で404人(1.5%)の減となっている。						
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか	図書資料購入費(図書備品費)が、前年度より337千円(10.8%)の減となっている。利用者の要望について、幅広い選書による図書購入及び相互貸借(県内図書館)により、貸出対応をしていきたい。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要	<input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止						
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり							
	利用者は徐々に減少傾向にあるが、今後も町の実情に合わせた実施に努められたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.20

平成26年度

事業名	読書推進活動事業						担当課	生涯学習課(図書館)	
1 総合計画の体系	章	4 充実した教育と安心コミュニティのまちづくり				節	1 明日を担う人づくり		
	基本施策		1 就学前の児童の教育の充実				(1) 家庭教育の充実		
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	12	読書推進活動事業
3 事業費 (決算額)	財源		平成24年度			平成25年度		平成26年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		227 千円			360 千円		4,517 千円	
4 事業の目的	対象	生後7・8ヶ月の乳児及び保護者、小学生							
	目的	ブックスタート事業、小学校への図書館司書派遣事業を行うことにより、乳児・児童が本に慣れ親しみやすい環境を整え読書推進を図ることを目的とする。							
5 事業の概要	<p>ブックスタート事業は、健康増進課で実施する7、8か月健康診査時及び離乳食教室後に、図書館職員とボランティアが絵本の読み聞かせを行いながら、1人に1冊の絵本を手渡します。</p> <p>図書館司書派遣事業は、町内小学校へ図書館司書を派遣し、小学校と連携をしながら図書室環境整備・読み聞かせを行います。</p>								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目						平成24年度	平成25年度	平成26年度
	ブックスタート(乳児健診時・栄養指導時)						183 人	155 人	186 人
	小学校への図書館司書派遣(司書派遣回数)								91 回
7 事業の評価	必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性が高い <input type="radio"/> 一定の必要性がある <input type="radio"/> 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	少子化や核家族化が進み女性の社会への進出も増え、地域との繋がりが希薄となり、子育ても孤立しがちな状況となっている中で、様々な角度からの子育て支援が求められている。							
	有効性	<input checked="" type="radio"/> 効果がある <input type="radio"/> 一定の効果がある <input type="radio"/> 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	絵本を通じて親子のふれあいの時間を持つことの大切さや、行政や地域が子育てを応援していることを、一人ひとりに伝えながらブックスタートパックを渡すことができた。							
	効率性	<input type="radio"/> 効率的である <input checked="" type="radio"/> 概ね効率的である <input type="radio"/> 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	図書館司書(嘱託職員2名)の報酬、ブックスタートで配布する絵本セットの購入費用として執行されている。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	<input type="radio"/> 改善が必要 <input type="radio"/> 拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止								
	<input checked="" type="radio"/> 現行どおり								
予算を増額しただけの効果が表れている。各学校の図書室運営も巻き込むように、今後も積極的な施策に努められたい。									

教育委員会における今後の対応について

学識経験を有する評価委員から資料の作成方や今後の方針等、貴重なご意見をいただき、平成 26 年度の教育に関する事務事業の点検及び評価を実施いたしました。

点検及び評価の手法につきましては、事業の必要性、有効性及び効率性の観点から定量的指標を示すことにより、公平かつ客観的な評価の実施に努めました。そのうえで平成 26 年度における主要 20 事業についての点検及び評価を実施し、事業の成果や課題の検証、さらに今後の事業方針等を確認いたしました。

点検及び評価の結果、評価対象である 20 事業について概ね良好に執行されており、今後についても現行どおりの事業運営を継続すべきであるとの評価をいただきました。各事業にてご意見やご指摘がございました課題や改善事項につきましては、再度、個々の事業を点検し、より事業の効果を高めるべく、教育行政の一層の推進に努めてまいります。

次年度の点検及び評価につきましては、各事業に関するデータの分析をより詳細に行い、グローバルな視点から事業評価を実施する必要があるとのご指摘をいただきました。また、よりきめ細やかな資料作りや数値に対する検証など、具体的な改善点もいただいております。今後も引き続き、点検及び評価の手法を改良し、実効性が高い評価の在り方を検討してまいります。

茨城町教育委員会は、評価委員からいただいた貴重なご意見をもとに、事業のさらなる改善を図り、町民に信頼され、支持される教育行政の充実に努めてまいります。

平成 27 年 12 月
茨城町教育委員会